

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18330028

研究課題名（和文） 先進国における政党再編と生産レジーム変容の国際比較研究

研究課題名（英文） Party System Change and Transformation of the “Varieties of Capitalism”

研究代表者

井戸 正伸 (IDO, Masanobu)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：00232497

研究分野：政治学・政治学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：グローバリゼーション、政党、生産レジーム、資本主義、民主主義、政党制

1. 研究計画の概要

本研究プロジェクトは、グローバリゼーションが進む中で、戦後の高度経済成長と社会的安定を実現するのに成功してきた先進各国の生産レジームおよび「資本主義の類型（Varieties of Capitalism）」が変容しているか否か、という現在、大きな議論の対象となっている問題について、新しい理論枠組みを提出し、新たな知見を得ることを目的とする。このため、世界各国でこの分野における重要な研究を行ってきた研究者との共同研究プロジェクトを組織し、以下のような研究を遂行するものである。

(1) グローバリゼーションと生産レジーム変化の因果関係に関するこれまでの議論において、政党システム・政党組織の変化は必ずしも十分な検討がなされてこなかった。本プロジェクトは、この政党システム・政党組織の変化を独立変数の一つとして加え、グローバリゼーションと生産レジーム変化の因果関係をより良く説明する新たな理論枠組みを構築する。

(2) この新たな理論枠組みを前提に、研究代表者、研究協力者以外にも、これまでこの分野で重要な研究を発表してきた世界各国の研究者に本プロジェクトの連携研究者として加わっていただき、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、日本、東欧、中国など世界各国の政党システム・政党組織変化と生産レジーム変容に関する実証分析を遂行する。このために、毎年、日本でプロジェクト・メンバーによる国際会議を開催し、共通の理論的枠組みにもとづく、相互に比較可能な実証分析を蓄積する。

(3) このようにして得られた世界各国の実証

分析をもとにして、グローバリゼーションの進む中における、政党システム・政党組織変化と生産レジーム変容に関する新たな知見を得ることを目指す。

2. 研究の進捗状況

本研究プロジェクトは、グローバリゼーションのもとで、先進各国の政党システム・政党組織変化と生産レジーム変容がいかに作用しあい、いかなる帰結をもたらすか、という共通の研究テーマを、多数決型民主制とコンセンサス型民主制という「民主制の型」と「資本主義の類型」の間の相似性に関する理論的研究（Schmitter 教授）、一国の個別事例研究（イタリアの生産システム変容についての Trigilia 教授による分析、押村教授の日本の世論調査の分析に基づく二大政党制の成立の可能性を探る分析、グローバリゼーションのもとにおける自民党と日本型資本主義に関する Pempel 教授の分析）、比較事例研究（Callaghan 氏のイギリス、ドイツ、フランスの買収規制に関する政党政治の比較分析、眞柄教授によるイタリアと日本の 1990 年代における政治改革と野党再編の比較分析）および計量的手法に基づく研究（Bruszt 教授による民主化以後の東欧諸国の民主制の型と経済発展戦略のクロスセクショナル統計分析、研究代表者による政党システム変化とコーポレートガバナンスと労働市場規制の相関関係に関するパネル分析）という複数の分析手法による研究をつうじて、明らかにすることを目指してきた。この目的を実現するため、これまで 3 回の国際会議（2006 年度、2007 年度、2008 年度）、2 回（2006 年度、2007 年度）の研究会を開催し、毎年、プロ

ジェクト・メンバーによる研究の進捗状況の報告、相互のコメント、議論を行ってきた。

現在は、2008年開催の第3回国際会議において、プロジェクト・メンバーが各自の研究報告の第2稿を提出したところである。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

(1) 研究代表者の提案した新しい理論枠組みについて、過去3回の国際会議において、プロジェクト・メンバーから貴重なコメントをいただき、より洗練されたものとなった。

(2) 当初、予定した海外の著名な研究者の研究プロジェクトへの連携研究者としての参加を実現することに成功した。第3回国際会議に提出された論文はすべてほとんど完成されたものであり、最終稿についても早くも09年4月現在、海外の研究者2名からいただいている。

4. 今後の研究の推進方策

2008年の国際会議後に開かれたビジネス・ミーティングにおいて、プロジェクトの研究成果を英文論文集として刊行することを目指すことで合意し、出版のスケジュール等、具体的な点について議論のうえ、決定した。プロジェクト・メンバーの原稿最終稿については、研究代表者のもとに2009年4月以降、送られてくる予定である。また、同年4月にはイタリアでヨーロッパ在住の連携研究者と日本側メンバーによる研究会および研究打合せを行う予定である。さらに、論文集の序文は、研究代表者と連携研究者のHelen Callaghanの二名の共著論文として執筆することに決定し、現在、その完成をめざしてメールにより連絡している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[その他]

(1) Party System Change and Transformation of the "Varieties of Capitalism" (Masanobu Ido)

(2) Production Regimes and Party Politics: Reversing the Arrow of Causation (Helen Callaghan)

(3) Reform or Decline: Party System Change under Political Economic Regime Transition in Italy and Japan in the 1990s

(Hideko Magara)

(4) Globalization, Party-State and Capitalism in China's Emergent Capitalism (Christopher McNally)

(5) Between Pork and Productivity: Can Japan's Ruling Party Reconcile the Tension? (T.J. Pempel)

(6) Framing a Regime Choice: The New Role of Biparty Competition in Japan (Takashi Oshimura)

(7) Varieties of Capitalism and Types of Democracy (Philippe C. Schmitter)

以上、すべて2007年度、2008年度の本プロジェクト第2回、および第3回国際会議に提出された論文。

さらに、Trigilia教授から研究代表者に次の論文が送付されてきている。

(8) On Recent Changes in the Italian Model of Capitalism (Carlo Trigilia and Luigi Burroni).